

# 本州最南端で採集された和歌山県初記録の土壌性甲虫類

保科英人

〒910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部

筆者は2018年3月下旬、本州最南端にあたる和歌山県串本町潮岬で落ち葉ふるいによる土壌性甲虫類の採集を行った。その結果、和歌山県初記録と思われる甲虫類3種を捕獲したので、本稿にて報告する。以下、これら3種の採集データは全て「和歌山県串本町潮岬, 25. iii. 2018, 筆者採集」である。

## ＜ガムシ科＞

オオヤマトオカツヤガムシ *Armostus ohyamatensis*  
Hoshina et Satô, 2006

2 exs.

本種は九州から本州太平洋側の関東まで分布する。Hoshina & Satô (2006) および保科 (2016) で述べたように、これまで本種は雌個体しか見つっていない。おそらく単為生殖種と思われる。

## ＜タマキノコムシ科＞

ウスゲマルタマキノコムシ *Agathidium (Cyphocele)*  
*nipponicum* Angelini et De Marzo, 1990

3 exs.

保科ら (2000) で概説したように、本種はタマキノコムシ科マルタマキノコムシ属 (*Agathidium* 属) の中では例外的に背面に微細な毛を持つ。また、模式産地を含め本種の既知産地は関西地域 (三重県含む) に限定されている。さらに、形態的に近縁と思われる種は国内他地域および周辺各国から知られておらず、生物地理学的に謎が多い種でもある。



図1. 和歌山県串本町潮岬の環境。

ツヤマルタマキノコムシ *Agathidium (Agathidium)*  
*sublaevigatum* Portevin, 1908

1 ex.

本種は久松 (1985) で写真付きで紹介されているが故に、各地の甲虫目録で名前をよく目にする。しかし、中には「背面が黒色で上翅に点刻が無いマルタマキノコムシ属」の種が単純に本種と同定されてきた事例が少なくない。率直なところ、本種の過去の記録はあまり信用できないので、本稿にて改めて記録しておく。

串本町潮岬には明治期に建設され歴史的価値が高い潮岬灯台がある。また、周辺には駐車場や展望台などが整備され、全体的に公園化が進んだ環境である (図1)。しかし、上記3種のうちウスゲマルタマキノコムシは後翅を欠く種であり (Hoshina, 1999)、筆者の経験上良好な状態の落葉層を残す森林でしか捕獲されない。今回上記3種以外に採集された土壌性甲虫類は種数・個体数ともに少なくなく、またウスゲマルタマキノコムシ以外にも後翅を欠く甲虫が捕れている。よって、潮岬周辺は紀伊半島南端の本来の土壌性甲虫相の一部を今なお残していると思われる。

## 引用文献

- 久松定成, 1985. タマキノコムシ科. pp. 233-237. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編. 原色日本甲虫図鑑2巻. 保育社. 514 pp.
- Hoshina, H., 1999. A taxonomic study of the genus *Agathidium* (Coleoptera: Leioididae) from Japan. I. Subgenus *Cyphocele*. Japanese Journal of systematic Entomology, 5: 43-60.
- 保科英人, 2016. 伊豆諸島八丈島から採集された小型甲虫類. さやばね, (23): 6-7.
- 保科英人・生川展行・市橋甫, 2000. 三重県のタマキノコムシ. 甲虫ニュース, (127-128): 5-10.
- Hoshina, H. & M. Satô, 2006. A taxonomic study of the genus *Armostus* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. The Coleopterists Bulletin, 60: 95-104.

(2018年4月4日受領, 2018年6月14日受理)